

# 平成28年度 全国学力・学習状況調査結果（小学校：国語）

## 1 分析と考察

- 国語A・B共に平均正答率は、全国に対して小学校は大きく下回っている。国語A・Bとも定着が不十分であり、特に活用面での差が大きい状況にある。国語Aでは14人中8人が全国平均正答数を下回り、国語Bでは9人が下回っている。個人差が大きく、しかも、支援の必要な児童が2～3人いる。
- 領域別では、国語A・B共に全ての領域で全国を下回っていて、特に国語Bでは大きく下回っている。
- 領域別の設問の中でも、国語Aでは「漢字の書き」「ローマ字の書き」「書き手の表現の仕方をよりよくするための助言」が特に不十分である。国語Bでは「目的に応じて、質問したいことを整理する」「話し手の意図を捉えながら聞き、話の展開に沿って質問する」「グラフや表を基にわかったことや考えを書く」「目的に応じて、文を比べて読むなど効果的な読み方を工夫する」「目的に応じて、文の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読む」が大きく下回っている。

## 2 成果と課題

- 「言語事項に関する理解」が十分定着していないので、反復練習が必要である。
- 「文の読み取り」や「文を書く」力が身につけていない子どもが多く、しかも、個人差も大きいため個別指導が必要である。
- 国語科に対する関心・意欲・態度が低いので、「わかる」「楽しい」授業の工夫がさらに必要である。

## 3 今後の具体的な取り組み

- ・これまでに学習した漢字を家庭学習や授業の最初の5分間漢字テストを行い復習する。また、学習が早く終わった児童については、読書をするように常に教室や机に本の準備をしておく。さらに、下位層の児童に対しては、既習内容の漢字の復習を、個別にプリントでさせたり、家庭学習でやったりするようにして、定着させる。また、かにつきチャレンジを利用して復習問題に取り組む。
- ・聞き取りや話すことが苦手な子どもに対しては、授業の中で、今まで以上に友だちの意見をつないで発表をさせたり、相手の意見をしっかりと聞き取らせながら自分の考えを出したりできるような場の設定を多く仕組み、正しく聞き取りができるようにする。さらに、下位層の児童に対しては、大切な言葉やキーワードになる言葉を子どもに伝えて、自分の意見や友だちの意見を比べて考えるようにしたり、メモをきちんと取ったりする習慣を身につけさせる。
- ・正確に読んだり、いくつかの情報をもとに総合的に読むことが苦手なので、文章中の大切な言葉や文章を読み落とさずに読んだり、主題を考えながら読んだりする等の活動を、授業の中で取り上げながら学習を進める。さらに、下位層の児童に対しては、家庭学習をする際に、テーマや考える時に大切になるキーワードをメモさせ、自分で取り組むことができるようにする。また、やり直しでは個別学習で考え方のポイントについて説明し、進んで取り組みができるように習慣を付けさせる。
- ・集会活動での振り返りの場で、めあてや問いの視点にそって感想を発表させる。また、日記指導で、自分の考えを文章に表したり視写をしたりしながら、自分の思いや考えを表現できるようにする。さらに、下位層の児童に対しては、発表や提案の大切な言葉をメモしながら聞き取らせ、感想や考えを表現できるように繰り返し練習させる。

# 平成28年度 全国学力・学習状況調査結果（小学校：算数）

## 1 分析と考察

- 算数Aの平均正答率は、全国に対して小学校はわずかに下回っている。また、算数Bでは、全国に対して小学校はさらに下回っている。算数A・Bとも定着が不十分である。算数Aでは14人中7人が全国の平均正答率を下回っていて、個人差が大きい。算数Bを見ると9人が下回っていて、全体的に活用力が低い傾向にある。さらに、支援が必要な子どもが2～3人いる。
- 領域別では、算数Aにおいては「図形」「数量関係」が、算数Bにおいては「数量関係」が大きく下回っている。
- 領域別の設問の中でも、算数Aでは「単位量当たりの大きさの求め方の理解」「図形の構成要素に着目して、図形を構成する」「割合で基準量と比較量の関係を理解」が特に不十分である。算数Bでは「2つの関係を式に表し、答えを求める」「示された式の中の数値の意味を解釈し記述する」「正方形に内接する円の半径について理解する」「表やグラフの読み取り」「式の意味を記述する」の部分が特に不十分である。

## 2 成果と課題

- 朝のドリル学習(かっこタイム)を行っているため、計算等技能的なことは身につけてきている。
- 性質や仕組みなどの知識面での定着が十分ではないため、更なる姫小スタンダードにそった授業改善が必要である。
- 学習した知識を応用したり、求め方や理由を記述したりするなど数学的な思考力が身につけていないので、かっこチャレンジ・宿題等で応用問題に取り組む必要がある。

## 3 今後の具体的な取り組み

- ・姫小スタンダードにそった授業を行い、活用力を育成するために、個々人に学習内容が定着するよう板書計画を工夫し、授業の中で自力解決の場を設定していく。さらに、下位層の児童に対しては、既習内容の復習を個別学習で補ったり、かっこタイムやかっこチャレンジの時間に繰り返し練習させたりする。
- ・単元内容の定着を複数指導や習熟度別での指導により身につけさせ、単元ごとの学習が終わった後に確かめのテストをし、確認する。さらに、下位層の児童に対しては、テストをした時には、『誤答ノート』を各自使って、自分が間違った所を問題文から書かせ、解かせていく。解き方が分からないところは、かっこタイムやかっこチャレンジを使って個別指導をさせる。
- ・かっこチャレンジで、以前に学習した苦手な内容について繰り返し復習していくことで理解の定着を図る。さらに、下位層の児童に対しては、学習プリントを使って、かっこチャレンジや家庭学習での取り組みをしながら、既習学習の内容の定着を図る。
- ・宿題と授業の内容とをリンクさせ、必ず次の日に答え合わせ・やり直しまでし、学習内容の定着を図る。さらに、下位層の児童に対しては、毎日、その日に学習した内容を、教科書を視写して解かせていく。わからないところがあれば、授業中または、かっこチャレンジで補っていく。

# 平成28年度 全国学力・学習状況調査結果（中学校：国語）

## 1 分析と考察

△国語Aの平均正答率は、全国に対して中学校はわずかであるが下回っており、16人中7人が全国平均正答数を下回っていた。国語Bの平均正答率は、全国に対して中学校は上回っていたが、5人が全国平均正答数を下回っていた。

△領域別では、国語Aの「話すこと・聞くこと」「読むこと」が全国を下回っているが、それ以外は全国を上回っている。

●領域別の設問の中でも、「読むこと」で、図書館での本の探し方、分類、PCによる情報検索の方法などを問う問題の正答率が低かった。また、「話すこと・聞くこと」では話し合いの目的をふまえた適切な発言を選びとる問題の正答率が低かった。さらに、国語A「言語事項」では、慣用句、文の成分の問題の正答率が低かった。

## 2 成果と課題

○「書くこと」では、毎日の授業や家庭学習で、課題を設定して書く問題に取り組ませてきた結果が国語A・Bの正答率につながったと考える。無回答もほとんどなく、記述する努力をしている。

○校内研の取り組みを中心とした授業改善に加え、朝読書などの読書活動やはがき新聞作りなどを通して、読解力や表現力など活用問題に対する力がついてきた。

●漢字の書き取り、慣用句など既習事項の正答率が低いことから、繰り返し復習することが必要である。

●活用問題の課題作文で、複数の正答条件を満たしていない解答もあり、個別の指導が必要である。

## 3 今後の具体的な取り組み

・やはずタイムや授業で、漢字や文法、語句の問題を繰り返し復習させ、定着させる。また、受験に向けて小中学校で学習した漢字を復習させる。

・授業では、リスニング問題を取り入れ、話し合いの目的や意図をとらえながら聞きとらせるとともに、自分の考えと比べたり考えを深めたりする活動を通して「話すこと・聞くこと」の力をつける。

・単元ごとに「書く」活動を設定する。特に、条件作文を多く取り入れ、課題にそって書くことを通して、読み手に伝わる文章の書き方や、書く材料、構成等を考えさせる課題を設定する。また、採点基準を明確にして推敲させ、個別に添削指導をすることにより個々の書く力を育成する。

# 平成28年度 全国学力・学習状況調査結果（中学校：数学）

## 1 分析と考察

- 数学の平均正答率はA・B共に、全国に対して中学校は下回っていて、個人差が大きくまだまだ定着が不十分である。数学Aでは16人中8人が全国平均正答数を下回り、数学Bでは9人が下回っている。
- △領域別では、数学Aの「図形」、数学Bの「資料の活用」が全国を上回っているものの、それ以外は下回っていて、特に数学Bの「図形」「関数」は大きく全国を下回っている。
- 領域別の設問の中でも、「分数・小数の混じった計算」、「自然数」「真の値」「方程式」の意味、基本的内容が定着していないところがあった。特に、「真の値」の理解が不十分であった。また、「反比例」「一次関数」も定着が不十分である。

## 2 成果と課題

- 「図形」領域では、基本的な図形の知識は、繰り返し復習した成果が出て、全体にわたって内容が定着していた。
- 「関数」領域では、「比例」についての理解は定着していたが、「反比例」「一次関数」の内容がよくない。「反比例」を小学校6年生で学習した「反比例」と対比させ、比例定数を負の数にまで拡張した範囲で理解させる必要がある。また、「反比例」や「一次関数」について、表・式・グラフ等と関連づけて理解させる必要がある。
- 各領域で基本的数学用語（自然数・真の値等々）の確認が不十分で、復習する必要がある。

## 3 今後の具体的な取り組み

- ・ 2学期の授業では「方程式」「関数」「図形」領域の単元の学習になるので、基本的な考え方をしっかり押さえ、1・2年生の学習内容と関連させながら、復習も取り入れわかりやすい授業を行い、苦手意識の克服を図る。
- ・ 日常の授業の単元のまとめの中で、自分の考えを説明したり、書いたりする場面をできるだけ多く作り、多様な考え方を互いに交流しながら工夫させる。
- ・ 課後学習（やはずタイム）で、「数と式」領域の基本的計算問題を復習し、基礎基本の定着を図る。
- ・ 週末課題で、「反比例」「一次関数」領域の類似問題を繰り返し出題したり、平成28年度「数学問題データベース」のプリントを活用したりして定着を図る。また、週末課題で数学B問題対策を出題し、活用力の向上を図る。
- ・ 習熟度別少人数授業の特性を活かし、個に応じた補充的な学習を充実させ、個別指導の時間を増やして苦手な領域の克服を図る。
- ・ 村教育委員会主催の「放課後・土曜学習支援事業」に係る土曜日塾・数学塾・水曜日塾での復習プリントを、授業の進度に合わせた内容にすることで、今日習ったことをその日のうちに復習できるよう数学担当と塾講師が連携して行い、基礎基本の定着を図る。

# 平成28年度 全国学力・学習状況調査結果（児童質問紙）

## 1 調査結果の概要

### 児童質問紙

#### ○ 学習に対する関心・意欲・態度

国語の学習については、好きでないと答えた児童が65%と全国・県に比べると多く、40%ほどが授業の内容がわからないと答えている。その反面、多くの児童が学習の大切さや必要性を感じている。また、「話の組み立てを工夫する」「内容を理解しながら読む」ことを苦手とする傾向にある。

算数の学習については、好きと答えた児童は70%ほどと全国・県よりも高く、85%ほどが内容をわかると答えている。しかし、「生活の中で活用する」「もっと簡単に解く方法を考える」「公式やきまりのわけを理解する」ことを苦手とする傾向にある。

総合的な学習の時間（本村では「ふるさと科」）については、好きと答えた児童は64%ほどと全国・県よりも低い。また、学習の大切さを理解はしているが、「課題を立てる」「情報を収集・整理」「発表」を苦手とする傾向にある。

#### ○ 規範意識・自尊感情

規範意識については、「学校のきまり」を守っていると答えた児童は90%以上と高い。しかし、「人が困っている時進んで助ける」「いじめは、どんな理由があってもいけない」ことに関して、全国・県に比べて意識が低い。

自尊感情については、達成した喜びを味わった児童が80%弱と全国・県に比べて低いが、「自分によいところがある」「将来の夢や目標を持っている」と回答した割合が全国・県に比べて高い。

#### ○ 学習の基盤となる活動・習慣

言語活動・読解力については、発表する機会もあり、発表することを得意とする児童が全国・県に比べて多い。しかし、これまで「話し合う活動」や「問題解決学習」に取り組んだ経験が少ないことがわかった。さらに、自分の考えを伝えたり、書いたりする活動を苦手とする傾向にある。

生活習慣については、「朝食」「寝る時刻」の項目共に全国・県に比べて高い。

学習習慣については、家で宿題をしている児童が全国・県に比べて多いが、予習や復習をする児童は非常に少ない。

## 2 姫島村の児童・生徒質問紙の調査結果をふまえて

- 他の人との関わり・交流を深める体験活動の充実
- 姫小スタンダードにそった問題解決学習やアクティブラーニングの推進
- 学校と家庭との連携強化
- 学力と特に相関が強いと考えられる事項についての考察
- 地域の人材活用の促進

# 平成28年度 全国学力・学習状況調査結果（生徒質問紙）

## 1 調査結果の概要

### 生徒質問紙

#### ○ 学習に対する関心・意欲・態度

国語・数学ともに学習に対する意欲がかなり高く、学習の大切さを認識し、授業内容をよく理解している生徒の割合が全国平均値よりも高い。

「数学の学習内容を生活の中で活用できないか考える」「数学が将来役に立つと思う」生徒の割合が低い。今回の調査問題では、特に数学Bにおいて解答時間が十分でなかったと回答した生徒の割合が多かった。

「総合的な学習の時間」（本村では「ふるさと科」）に意欲的に取り組み、自分で課題を立て、情報収集し、調べたことを発表する学習活動を実感しており、その学習活動は普段の生活や社会に出たときに役立つと考えている生徒の割合が高い。

#### ○ 学習状況

授業では、生徒同士での話し合い活動が十分であると感じたり、道徳の授業においても自分の考えを深めたり、グループで話し合ったりする活動に取り組んでいると感じている生徒の割合が高い。また、授業の目標（めあて）やまとめを意識して学習している生徒の割合も高い。

ただ、与えられた課題に対し自主的に取り組む生徒の割合が低く、授業の中でわからないことを「友達に尋ねる」と回答した生徒の割合が全国平均値より30ポイント近く高い。

#### ○ 学習時間等、基本的な生活習慣

家庭において自分で計画を立てて勉強したり、学校の宿題・復習をしたりする生徒の割合や家庭学習の時間は全国平均値よりも高いが、携帯電話等による通話やメール、テレビやビデオ・DVD、ゲーム等の時間が長く、就寝時間が不規則な生徒の割合がやや高い。

「ほとんど図書館へ行かない」という生徒は少ないものの、読書好きな生徒は全国平均値より約7ポイント低い。

#### ○ 学校生活等、コミュニケーション能力

学校や学級生活に対する満足度は高く、特に、学級内できまりを決めたり、自分とは異なる意見を尊重し、折り合いをつけたりしながら意見をまとめていると感じている生徒の割合が、全国平均値より20ポイント以上高い。

友達の前で自分の考えや意見を発表したり、友達の話や意見を最後まで聞いたりすることを苦手とする生徒が多い。

#### ○ 家庭でのコミュニケーション、地域との関わり、社会に対する興味・関心等

家の手伝いをする生徒の割合は全国平均値より約20ポイント高い。地域行事に参加する生徒も全国平均値の約2倍である。

地域や社会で起こっている問題や出来事に関心を持ち、地域のボランティア活動にも参加する生徒は7割を越える。テレビやインターネットのニュースを見る生徒の割合は全国平均値より高いが、新聞を読む生徒の割合は半分以下である。

○ 将来に関する意識、自尊感情、規範意識

将来の夢や目標を持っている生徒の割合は全国平均値より30ポイント近く高く、人の役に立つ人間になりたいと思っている生徒も多い。

自分にはよいところがあると感じたり、ものごとを最後までやり遂げうれしかったと感じたりする生徒の割合は全国平均値とほぼ同じであるが、難しいことでも失敗を恐れず挑戦していると回答している生徒の割合がやや低い。

学校の規則を守る、いじめはいけないなどの規範意識に関する質問に対する肯定的回答は全国平均並みである。

## 2 姫島村の児童・生徒質問紙の調査結果をふまえて

- 家庭と連携した、テレビ等のゲームや、携帯電話の利用に関する「ゲーム・インターネット使用宣言」を遵守する取組の推進
- すべての教科等における探求的な学習活動や言語活動の充実を図った更なる授業改善
- 学校、家庭、地域社会が連携・協力した道徳教育の充実や、家庭の教育力の向上、地域での健全育成等の推進

# 平成28年度 全国学力・学習状況調査結果（学校質問紙）

## 1 調査結果の概要

### 小学校：学校質問紙

#### ○ 教科指導

個に応じた指導については、算数の授業の中で習熟度別・少人数・TTが行われ、きめ細かな指導・支援が行われている。

国語の指導法については、基礎的・基本的な事項を定着させる授業や補充的な学習の指導に力を入れてきた。しかし、発展的な学習や様々な文章を読む習慣をつける授業については不十分などころがあった。

算数の指導法については、補充的な学習や反復練習をする授業に力を入れてきた。しかし、実生活における事象との関連をはかった授業を十分行うことはできていない。

#### ○ 学力向上

児童の状況については、やや落ち着きがなく、授業に集中することができない傾向にある。また、「最後まで聞く」「考えを深めたり、広げたりする」「資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発言や発表を行う」ことが苦手な傾向にある。

学力向上に向けた取組・指導方法については、「新大分スタンダード」にそった姫小スタンダードの確立を図るためにさまざまな取り組みや指導法の工夫がなされていることがわかる。しかし、問題解決学習・図書館活用教育・キャリア教育など、まだまだ不十分などころもある。

家庭学習については、習慣化を図るために教職員で共通理解を図り、児童や保護者に対して働きかけを行ってきている。しかし、課題の与え方や内容についての共通理解が十分図れていない。さらに、予習・復習に関しても指導が不十分である。

#### ○ 学校経営

地域人材・施設の活用においては、保護者や地域の人々の協力を得ながら子どもたちの育ちを支援する取り組みを行ってきている。しかし、離島ということもあり博物館や科学館などの施設を利用した学習は難しい。

教育研修・教職員の取組については、課題を明確にし、学校教育目標・重点目標の達成に向け全教職員で組織的に研修や授業改善を行ってきている。しかし、研修や諸会議の時間確保が難しい現状もあり、同じベクトルでなかなか取り組めていないことも実態である。

## 2 姫島村の学校質問紙調査の結果をふまえて

- 豊かな体験学習を充実させるための支援や場づくり
- 学力向上に向けた人的・物的支援
- 学校・保護者・地域とが一体となった子育て支援体制の確立
- 姫小スタンダードにそった問題解決学習やアクティブラーニングの推進
- 小中連携の推進と強化



# 平成28年度 全国学力・学習状況調査結果（学校質問紙）

## 1 調査結果の概要

### 中学校：学校質問紙

- 学習態度、指導方法・学習規律  
学習態度や学習規律は定着しており、学級やグループでの話し合い等の活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができている。
- 学力向上に向けた取組  
放課後や土曜日、長期休業日を利用した補充的な学習サポートを実施しているが、学校図書館を活用した授業が十分でない。
- 国語科の指導  
国語科の指導方法に関しては、漢字・語句など基礎的・基本的な事項を定着させる指導とともに、目的や相手に応じて話したり聞いたり、書く習慣を身につけたりする授業、補充的な学習の指導や発展的な学習の指導等を実施することができた。
- 数学科の指導  
数学科の指導方法に関しては、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図るための反復練習を強化し、補充的な学習の指導や発展的な学習の指導、実生活における事象との関連を図った授業も実施できた。習熟度別の少人数による指導も実施した。
- コンピュータなどを活用した教育  
国語や数学の授業において、コンピュータ等の情報通信技術を活用した授業を実施したが、情報通信技術を活用して、生徒同士が教え合い学び合うなどの学習や課題発見・解決型の学習指導を行うことはあまり実施できていない。
- 家庭学習  
家庭学習の課題（宿題）は与えているが、ていねいな評価・指導、家庭学習の与え方についての教職員の共通理解は十分とは言えない。調べたり文章を書いたりする家庭学習課題は少なかった。保護者に対しての家庭学習を促すような有効な働きかけは課題である。
- 教員研修、教職員の取組  
講師を招聘したり、授業研究を伴う校内研修を実施したりした。学力傾向や課題については、全教職員間で共有し組織的に取り組んでいる。
- 全国学力・学習状況調査等の活用  
全国学力・学習状況調査の結果を、指導の改善や指導計画等への反映、学校全体での教育活動の改善等に活用しており、村報等を通じて保護者や地域の人たちに対して公表している。
- 学校種間の連携、地域の人材・施設の活用  
小中学校で合同研修等を開催し、教育課程の接続や共通の取組等を実践している。  
地域人材を外部講師として招聘した学習活動や補充学習を実施している。また、美術館等を利用した学習活動や職場体験活動を行っている。

## 2 姫島村の学校質問紙調査の結果をふまえて

- 学習・生活習慣と学力との関係についての分析・考察
- 学校の指導、家庭学習の状況の更なる改善
- 教育課程や指導計画、研修体制の見直し
- 学校・家庭・地域の協働の更なる推進